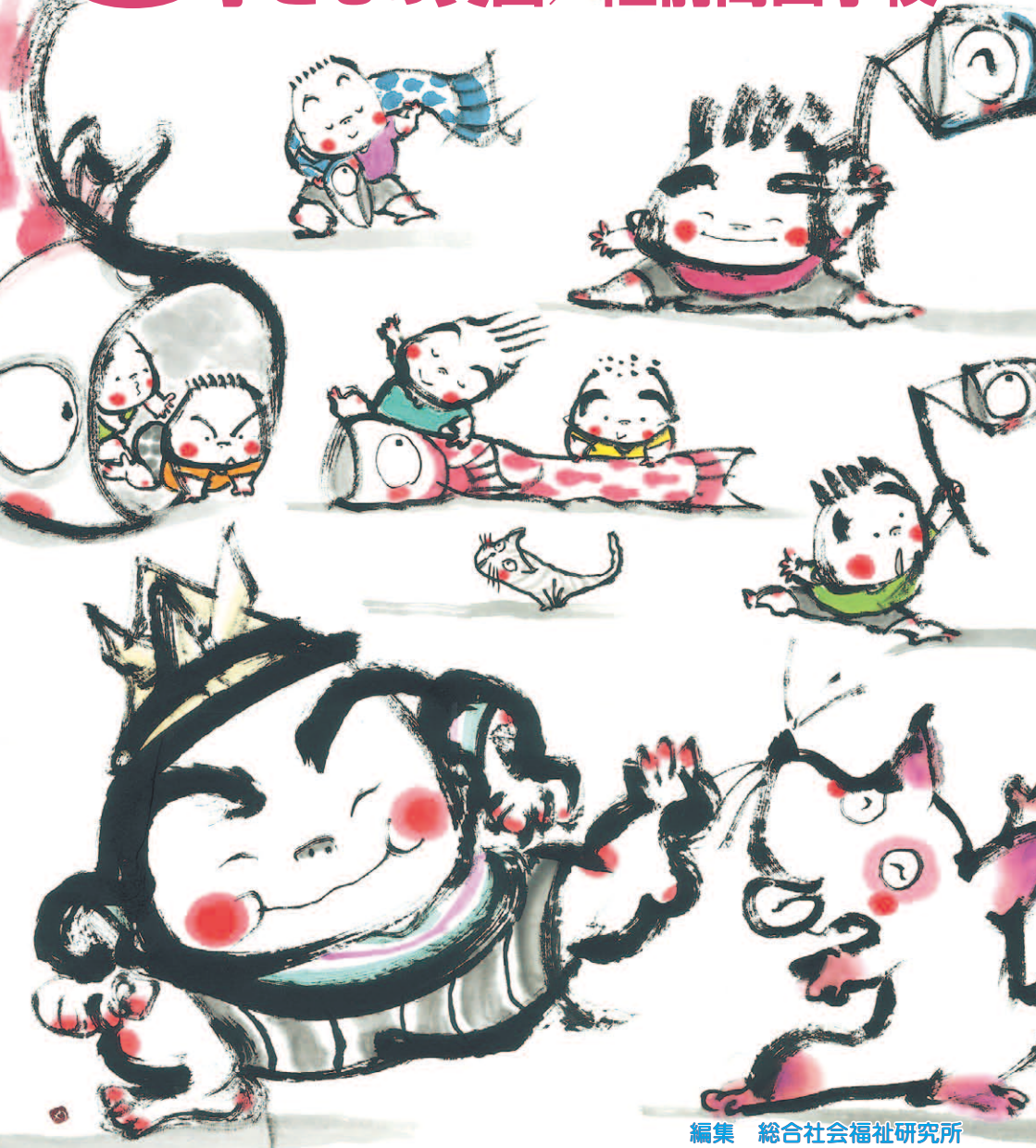


福祉のひろば 5

2017

特集

子どもの貧困／陸前高田学校



住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21

<http://www.creates-k.co.jp>

クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741

FAX 075 (693) 6605

送料何冊でも240円

安岡芙美子◆著

極微の発達への旅



認知症を 生き抜いた 母

●団塊の世代に読んでほしい！

人間は生まれてから死ぬまで
発達課題をもち、認知症になっ
てさえ発達すると考える。記憶
をはじめ、さまざまな後退に抗
い、悪戦苦闘しながら自分の
世界を生きている。

A5判180頁 1600円+税

認知症の人と家族の会愛知県支部
ケアラーマネジメント研究会◆編者

介護家族のアセスメントと支援

自信がつく 家族支援



「家族のたどる心理ステップ」
「介護者を理解する早わかり表」
「アセスメントシート」で介護者
の立場の違い(娘・息子・妻・夫・
嫁)別に支援する方法を伝授!

A5判106頁 1200円+税

●介護者との関係づくりに役立つ！
一ケアマネ応援!!

田村和宏・玉村公二彦・中村隆一◆編者

から学びか

療育記録映画
「夜明け前の子どもたち」



発達のひかりは 時代に充ちたか？

半世紀前「この子らを世の光
に」の時代に誕生した「発達保
障」のいま、もう一度、生の営み
を見直すきっかけを。

B5判200頁 2500円+税

陸前高田学校

(陸前高田の語り部・實吉 義正さん、

釜石平田仮設団地、そして福島飯舘村)

陸前高田
未来へ語り継ぐ

2月22日～24日に開催された第2回陸前高田学校（学校長・菅野悦雄さん）は、陸前高田市の後援をいただき、戸羽市長から陸前高田の現状と課題や生活問題、そして災害公営住宅での入居者聴き取り、福祉現場で働く方々との交流が行われました。24日には大川小学校跡地や飯舘村を視察し、福島駅で解散しました（写真は、語り部の實吉さん）。

陸前高田 旧「道の駅」



時間が経ったからといって、^{まぶた}瞼から当日の様子は消せない！

旧「道の駅」の前でパネルをかざして震災前の陸前高田のようすを語る實吉さん。「それぞれが瞼から消せないものを持っている。津波は病院の4階床まで到達した。院長から職員に退避指示が出され、屋上に移動した直後に波が押し寄せてきた。そのとき、助けられなかった入院患者さんと最後にあわせた目が今でも忘れられない」「地震、と津波、の間の過ごし方が岐路だった。いったん避難したのにまた戻って津波に飲み込まれた」「ついて来ている、と思っていた母ちゃんが振り返るといなかった」「まだ、200名を超す人たちが不明のままです」と話されました。

釜石市 平田^{へいた}仮設住宅



釜石市の大規模仮設団地。もとは平田^{へいた}総合グラウンドだったところの仮設団地です。260戸のうち現在約150戸に入居。支援や1ターンの人の入居が30戸ほど、120戸程度が被災者です。高齢独居が進み、毎月のように人が亡くなっていきます。仮設が終^{つい}の棲家^{すみか}になっています。平田第6仮設団地自治会長さんから伺いました。

福島県飯館村



福島県飯館村。福島県生活と健康を守る会連合会会長の佐藤八郎さん（元村会議員で、昨年の村長選挙に立候補し4割以上の支持を獲得）が、3月末に避難指示区域を解除するという村と国に対して鋭く迫ります。生活基盤が揃えられていない、被曝線量も測定器のデータが偽装されていたり、15%しか除染しないで終結させるやり方。村民に何か責任があるのだろうか？

村民はじっと黙って、放射能をあびて、死ぬのを待つのか！ 飯館村から現在、福島県内に避難している人は5,707人（うち福島市内3,625人）、県外避難は342人。県内に避難している人の住居は、仮設住宅に755人、借り上げ住宅に1,767人、住宅取得や親族宅等が2,949人（3月1日現在）となっています。避難されずに住み続けている人が11人。3月末の避難指示区域解除で、こうした避難者の方々の多くが村に戻って来るとは思えません。しかし、避難者を支援するさまざまな制度はどんどん削られていきます。（写真・文：下野祇園）

●特集Ⅰ● 子どもの貧困

子どもの貧困、陸前高田学校によせて

踏まれた草にも花が咲く

8

子どもの貧困対策の未来～子ども食堂をこえて～

——生野子育て社会化研究会がシンポジウムを開催——

12

憲法記念日とこどもの日を迎えるにあたって

——児童養護問題から「容認できない子ども時代の不平等、
不公正の実態と解消のために」を考えます——

黒田 孝彦 14

●特集Ⅱ● 陸前高田学校

第2回陸前高田学校日程

19

写真で見る陸前高田

20

陸前高田市の復興の取り組み

24

災害公営住宅はいま～下和野団地、中田団地～

26

後継者を育てながら津波被害を語り継ぐ

實吉 義正 30

東日本大震災から丸6年

——進め復興、それでも心に抱く希望——

戸羽 太 33

現場からみえてくる陸前高田の現状と課題

——障害者の相談支援活動をとおして——

近江 雅喜 36

〈飯館村視察〉村に戻っても安心して暮らせない

佐藤 八郎 40

参加者の感想

42

●トピックス●

第23回社会福祉研究交流集会 in 東海（お知らせ）

45

フィールドワークでめぐった一部を紹介！ 第4回釜ヶ崎のまち短期留学

46

～小川政亮先生に聞く～

日本社会事業学校の誕生から大学化を振り返る

50

◆ひろば読者会◆岩手県久慈市 この地に26名の読者がいます！

54

●連載●

施設から子どもたちの未来をきりひらく

こどもたちの巣立ちを大切にしたい

吉岡美佐穂 58

相談室の窓から G君の気になる行動（3）

自閉症の人の特質への理解と配慮を

青木 道忠 62

育つ風景 認証保育園と出会って

清水 玲子 64

「助けて！」って言ってもええねんで！

子どもの貧困対策の未来～子ども食堂をこえて～ 徳丸ゆき子 66

全盲夫婦の出会いから 二人三脚のあゆみ 千田勝夫・網枝 68

二人の出会いから結婚へ（5）

映画案内 『殿、利息でござる！』

吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて

生田 武志 72

木村友祐『野良ビトたちの燃え上がる肖像』—野良猫と野宿者の共闘

似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

有名人を描くのじゃ！～その2～

ラッキー植松 74

ホームレスから日本を見れば

ありむら潜 76

花咲け！男やもめ

川口モトコ 77

●表紙の絵●
神門やす子



創造する確かな力を 育てる

まさこ
稚子かぎた
柿田

全国幼儿教育研究協議会世話人

たとえば「運動会」という行事に向かう保育園四歳児クラスの三通りの保育をあげてみます。一番目は、大人が決めた競技に子どもを追い立て、猛特訓を課すタイプで、今、大阪で問題になっている、いわゆる愛国の保育にみられるような管理と強制の保育です。二番目は、大人が計画を決めたうえで、子どもたちに話し合わせ、シナリオに沿うように誘導していくもので、二月に提示された『保育所保育指針改定(案)』の描く保育がこれにあたるでしょう。三番目は、大人と子どもが主体となって計画し活動を創っていく保育であり、私たちが大事にしたい子どもの権利条約の精神に基づくものです。これらを命名するなら順に、「従順の保育」、「適応の保育」、「創造の保育」となるでしょうか。

ところで国立青少年教育振興機構は、二月一四日に、米国、中国、韓国に比べて日本の高校生への姿勢が消極的であり、将来設計に対して控えめであるという調査結果を公表しました。学習指導要領をはじめ幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針は、これまで「能動的な学び」を最重要課題とし、それは今回の改訂・改定でも変わりません。でも日本の子どもに、能動性や主体性は育っていないという調査報告なのです。なぜでしょうか。それは一人ひとりが本当に対話を重視し、自ら考え、社会や世界を切り拓くような人間になられては実は困る、という政権や財界の本音が関与し、つまりは環境を創造す



かきた まさこ

大学非常勤講師。

著書『陽だまりのゆりかご——これからの子育て』（あゆみ出版、1998年）、共著『支えあい育ちあう 乳幼児期の集団づくり』（かもがわ出版、2012年）

るのでなく、環境に適應する人間を育てる教育となっているからです。

一方、『保育所保育指針改定（案）』には、保育の定義である「養護と教育の一体化」からことさらに「教育」を取り出し、小学校の教育に連携し「接続」しようとする意図が顕著です。すでに保育現場では、授業への適應を図り、教科学習を先取りするような状況があり、その促進が懸念される場所です。そして、さらにこの「接続」をテコにして踏み込んだのが三歳児からの「国旗・国歌」の導入です。園の行事には二歳以下の子どもが参加する場合も多々あり、「国」も「君」も理解のしようがない子どもへのこうしたすり込みは、まさに小さなうちからの順応をねらうものです。教育基本法の対象を就学前の子どもにまで広げ、憲法を変えるための地ならしとしたい思惑が透けてみえます。

子どもは、好奇心と探求心にあふれ、生まれながらにして能動性を備えた存在です。知りたくてわかりたくて、だから一歳児は「コレなに？」を連発し、三歳児ならば「なんで、どーして」と納得するまでそのワケをたずねるのです。保育室は、問いかけに満ち、「みんなが平和に過ごし、どの子どもも幸福になるにはどうすればよいか」は、日々の大事なテーマです。子どもの問いかけにどう応えるか。大人の誠実が試されます。未来を創造する主人公にふさわしい確かな力を今こそ育みたいものです。

特集

子どもの貧困、陸前高田学校によせて

踏まれた草にも花が咲く (千田 夏光)

◆民間シエルターいくの学園が来年で二〇年を迎えます

生野学園創立四〇周年記念に、作家の千田夏光さんが寄せたメッセージは、「……生野学園における最大の特徴は、差しのべるその手のぬくもりであることを知っている。これからも、どうかその暖かい手をと、願ってやまない。踏まれた草にも花は咲くのである」というものでした。この思いは、今も生き続いています。

五月の風を感じながら、児童福祉を願うひとつのテーマとして〈いくの学園〉を紹介することにしました。

いくの学園は来年には民間シエルターとして二〇年を迎えます。一〇年を迎えたとき「いくの学園はみんなのいえ」というメッセージを発信しました。そこには、次のように紹介されていました。

いくの学園は、一九四六年、戦後すぐに「財団法人婦人成美寮」として始まり、一九五一年に「大阪府立婦人保護施設生野学園」（大阪福祉事業財団運営）と、その名称を変えました。そして、一六年にわたって生野学園の現地建替・婦人保護事業の拡充・売買春の根絶を求め続けましたが、大阪府は生野学園を含む三つの婦人保護施設を一九九七年に廃止、大阪府女性自立支援センターに統合されました。

その後、一年の準備期間を経て、一九九八年に民間施設「女のかげこみ寺・生野学園」として生まれ変わり